

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問1

ア～ウを比較して、実演家人格権として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 公表権
- イ 同一性保持権
- ウ 氏名表示権

問2

ア～ウを比較して、商標登録出願の代理に関して、他人の求めに応じ報酬を得て行う者として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 弁理士
- イ 商標調査業務を担う法人
- ウ 特許業務法人

問3

ア～ウを比較して、特許出願に係る書類の記載要件に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

特許権は発明を公開したことへの代償として付与されるものであるから、 の記載要件として、その発明の属する技術分野における通常の知識を有する者がその発明を実施することができる程度に明確かつ十分に記載したものでなければならないとされている。

- ア 要約書
- イ 図面
- ウ 発明の詳細な説明

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問4

ア～ウを比較して、商標法に規定されている制度に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 延長登録制度
- イ 登録異議申立制度
- ウ 更新登録申請制度

問5

ア～ウを比較して、著作権法における頒布の性質に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 上演と演奏の性質を備える。
- イ 譲渡と貸与の性質を備える。
- ウ 上映と譲渡の性質を備える。

問6

ア～ウを比較して、育成者権の効力に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 農業を営む者の自家増殖には、育成者権の効力が原則として及ばない。
- イ 育成者権者は、品種登録を受けた品種の名称について独占的に商標権を取得することができる。
- ウ 育成者権の効力は、登録品種の種苗を利用する行為にのみ及び、登録品種の収穫物を利用する行為には、育成者権の効力が及ぶことはない。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問7

ア～ウを比較して、無断で著作物を利用された権利者が侵害行為に対してとり得る法的措置に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 名誉回復の措置の請求
- イ 侵害行為をやめるよう侵害の停止を請求する差止請求
- ウ 悪意の侵害者に対する懲罰的な損害賠償請求

問8

ア～ウを比較して、パリ条約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 優先期間中に出願された特許について、先に出願された同盟国で特許権が付与されると、後に出願された他の同盟国でも特許権が付与される。
- イ 同盟国が他の同盟国の国民に与える利益が、最恵国待遇の原則により、他のすべての同盟国の国民に対しても無条件で与えられる。
- ウ 出願人が、同盟国にした最初の特許出願に基づきパリ条約上の優先権を主張して他の同盟国に特許出願をした場合、当該他の同盟国の特許出願には、最初の特許出願時にされたのと同様の利益が与えられる。

問9

ア～ウを比較して、特許法における新規性喪失の例外の規定に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許を受ける権利を有する者の意に反して公知となった発明について特許出願する場合、特許出願の日から30日以内にそのことを証明する書面を提出した場合でなければ、新規性喪失の例外規定の適用を受けることができない。
- イ 特許を受ける権利を有する者の行為に起因して公知となった発明について特許出願する場合、その発明が公知となった日から6カ月以内に出願しなければ、新規性喪失の例外規定の適用を受けることができない。
- ウ 公の場で試験をした発明については、その試験がその発明の技術的效果を確認するために行ったものである場合でなければ、新規性喪失の例外規定の適用を受けることができない。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問10

ア～ウを比較して、編集著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 編集著作物とは、編集物であって自然法則を利用した技術的思想の創作のうち創作性を有するものである。
- イ 編集著作物とは、編集物であってその素材の選択又は配列によって創作性を有するものである。
- ウ データベースの著作物は、編集著作物の1つである。

問11

ア～ウを比較して、不正競争防止法に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 商品について、その原産地や品質を誤認させるような表示をする行為は、不正競争行為に該当しない。
- イ 特許権の侵害である旨の警告書を相手方の取引先に対して送付する行為は、特許権の行使であるから、その内容に虚偽の事実が含まれていても、不正競争行為には該当しない。
- ウ 他人の商品と形態が同一の商品を販売した場合、その販売行為が、不正競争行為に該当することがある。

問12

ア～ウを比較して、共同著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 歌詞と楽曲からなる歌は、それぞれを別々に利用することができるので共同著作物である。
- イ 複数人が共同して著作物を創作した場合、その著作物は常に共同著作物であり、著作権は共有となる。
- ウ 複数人が共同して創作した著作物であって、その各人の寄与を分離して個別的に利用することができないものは、共同著作物である。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問13

ア～ウを比較して、商標権に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 通常使用権は、登録しなくとも、その発生後にその商標権を取得した者に対して、その効力が生ずる。
- イ 商標登録出願の日前から、登録商標と同一の商標を使用し、当該出願日において、周知であれば、先使用権が認められる場合がある。
- ウ 商標権者は、指定役務に類似する役務について登録商標を独占して使用することができる。

問14

ア～ウを比較して、実用新案権を行使するために必要な書類として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 弁理士が作成した実用新案鑑定書
- イ 特許庁の審判官が作成した実用新案判定書
- ウ 特許庁の審査官が作成した実用新案技術評価書

問15

ア～ウを比較して、著作物に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア コンピュータ・プログラムは、技術的な成果物なので著作物として認められない。
- イ 音楽の著作物に限っては、著作権等管理事業者に作品届を提出しなければ著作物として認められない。
- ウ 著作物は、思想又は感情を創作的に表現したものでなければならない。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問16

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）において規定されている制度に関して、国際事務局が行うものとして、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際出願の受理
- イ 国際公開
- ウ 国際予備審査

問17

ア～ウを比較して、特許出願に対する出願審査請求に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 特許出願人以外の者でも、出願審査請求をすることができる。
- イ 特許出願人は、出願審査請求を取り下げることができる。
- ウ 特許出願について、出願審査請求が出願日から3年以内にされなかった場合には、その特許出願は取り下げられたものとみなされる。

問18

ア～ウを比較して、特許法と独占禁止法の関係に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 独占禁止法は、特許法による権利の行使と認められる行為であっても特段例外についての規定はなく、適用される。
- イ 独占禁止法には、特許法による権利の行使と認められる行為には適用されない旨が規定されている。
- ウ 独占禁止法は、特許法による損害賠償請求権の行使と認められる行為には適用されないが、差止請求権の行使と認められる行為には適用される。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問19

ア～ウを比較して、意匠権の存続期間に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 意匠登録出願の日から20年で終了する。
- イ 意匠権の設定の登録の日から20年で終了する。
- ウ 意匠公報の発行の日から20年で終了する。

問20

ア～ウを比較して、独占禁止法に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 不当な取引制限には、カルテルと入札談合がある。
- イ 独占禁止法の運用は、経済産業省が行う。
- ウ 事業者は、私的独占又は不公正な取引方法による取引をしてはならない。

問21

ア～ウを比較して、著作権等に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 映画の著作物の著作権の存続期間は、その映画の公表後70年を経過するまでである。
- イ 著作権は譲渡することが可能であり、著作者人格権も一定の場合には譲渡できる。
- ウ レコード製作者の権利は、当該レコードの発売日に発生する。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問22

ア～ウを比較して、特許出願に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 同一の発明について同日に二つの特許出願があったときは、先にされた特許出願の特許出願人が特許を受けることができる。
- イ 同一の発明について同日に二つの特許出願があったときは、特許出願人の協議により定めた特許出願人のみが特許を受けることができるが、協議が成立せず、又は協議をすることができないときには、いずれの特許出願人も特許を受けることができない。
- ウ 同一の発明について同日に二つの特許出願があったときは、先に発明を完成した特許出願人が特許を受けることができる。

問23

ア～ウを比較して、著作権法上の引用に関する次の文章の空欄〔1〕～〔2〕に入る語句の組合せとして、最も適切と考えられるものはどれか。

公表された他人の著作物を引用して利用する場合は、公正な〔1〕に合致し、引用の目的上〔2〕範囲内で行われるものでなければならない。

- ア 〔1〕=取引 〔2〕=適当な
- イ 〔1〕=慣行 〔2〕=必要な
- ウ 〔1〕=慣行 〔2〕=正当な

問24

ア～ウを比較して、意匠法に規定されている制度に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 関連意匠制度
- イ 出願公開制度
- ウ 秘密意匠制度

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問25

ア～ウを比較して、特許協力条約（PCT）に関する出願人の請求によってのみ開始される手続として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 国際予備審査
- イ 国際公開
- ウ 国際調査

問26

ア～ウを比較して、商標法の保護対象として、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア におい
- イ 立体的形状
- ウ 記号のみからなる商標

問27

ア～ウを比較して、特許出願の実体審査において、その特許出願前に公開された特許公報に記載された発明に基づき容易に発明することができたという拒絶理由通知を受けた出願人がとり得る措置として、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 手続補正書を提出する。
- イ 答弁書を提出する。
- ウ 不服審判を請求する。

【第27回3級（管理業務）学科試験】

問28

ア～ウを比較して、商標登録出願に関して、最も不適切と考えられるものはどれか。

- ア 自己の登録商標と類似する商標であって、その商標登録に係る指定商品について使用をするものについて、商標登録を受けることができる。
- イ 他人の業務に係る商品を表示するものとして需要者の間に広く認識されている商標に類似する商標であって、その商品に類似する商品を指定商品とするものについて、商標登録を受けることができる。
- ウ その商品の普通名称を普通に用いられる方法で表示する標章のみからなる商標について、商標登録を受けることができない。

問29

ア～ウを比較して、著作物に関する次の文章の空欄 に入る語句として、最も適切と考えられるものはどれか。

私的使用のためであれば、個人的に又は その他これに準ずる限られた範囲内において使用することを目的とするときは、著作権者に無断で著作物を複製することができる。

- ア 職場内
- イ 屋外
- ウ 家庭内

問30

ア～ウを比較して、契約に関して、最も適切と考えられるものはどれか。

- ア 代表取締役以外の者により締結された契約は、無効である。
- イ 債務不履行の債務者に対して、債権者は、その履行の強制を裁判所に請求することができる。
- ウ 当事者間において意思表示が合致していれば、口約束による契約であっても、瑕疵ある意思表示による契約であっても、有効である。

【3級学科】

| 番号 | 正解 |
|-----|----|
| 問1 | ア |
| 問2 | イ |
| 問3 | ウ |
| 問4 | ア |
| 問5 | イ |
| 問6 | ア |
| 問7 | ウ |
| 問8 | ウ |
| 問9 | イ |
| 問10 | イ |
| 問11 | ウ |
| 問12 | ウ |
| 問13 | イ |
| 問14 | ウ |
| 問15 | ウ |
| 問16 | ウ |
| 問17 | イ |
| 問18 | イ |
| 問19 | イ |
| 問20 | イ |
| 問21 | ア |
| 問22 | イ |
| 問23 | ウ |
| 問24 | イ |
| 問25 | ア |
| 問26 | ア |
| 問27 | ア |
| 問28 | イ |
| 問29 | ウ |
| 問30 | イ |